

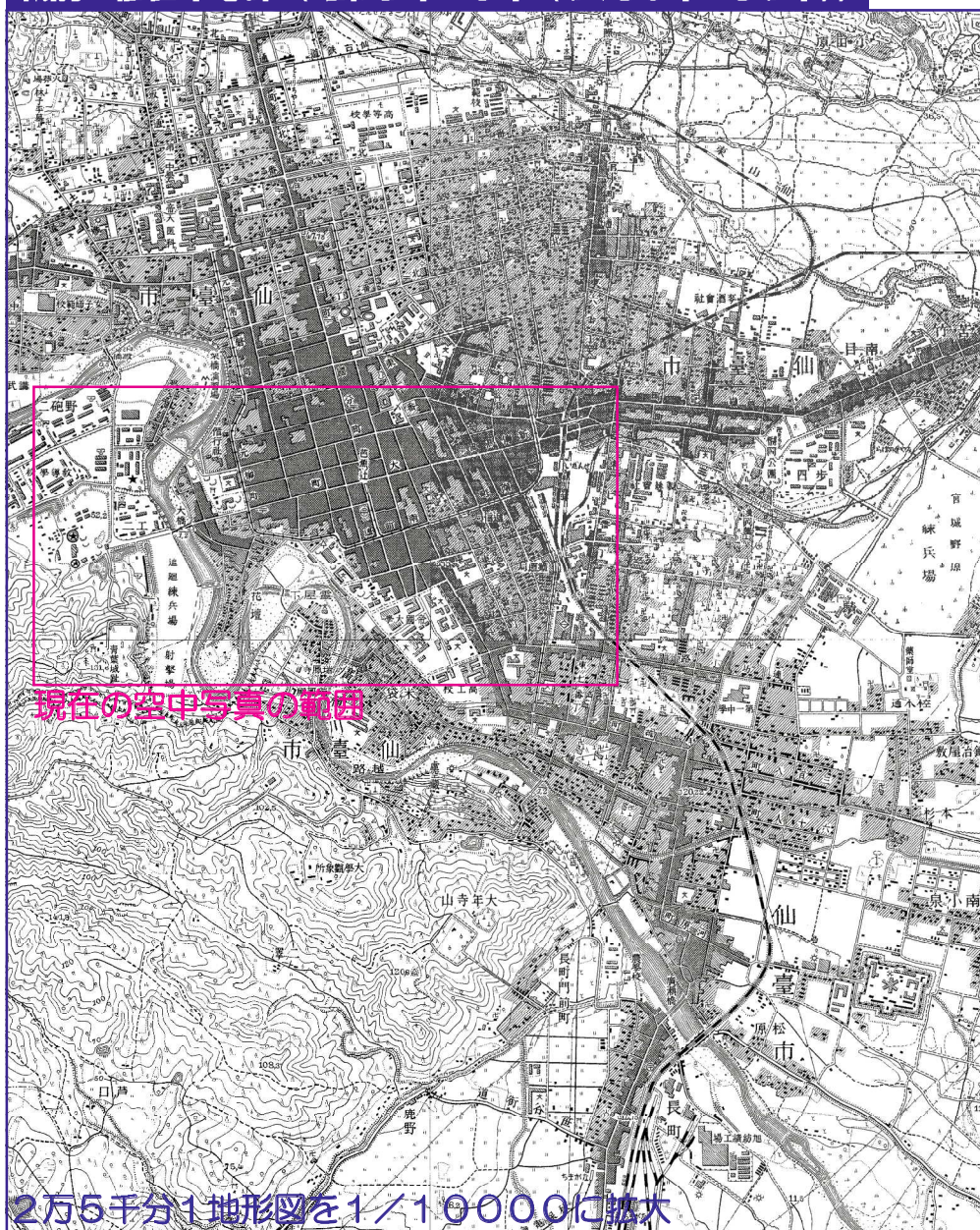
仙台・・・緑あふれる「杜の都」がよみがえる

戦前の仙台市は、東北帝国大学及び第二高等学校（現東北大学）や陸軍第二師団に代表される“学都・軍都”として、東北の中心都市となっていました。また屋敷林などの緑にあふれる姿で「杜の都」とも呼ばれました。

しかし昭和20年（1945年）7月10日、焼夷弾による2時間あまりの空襲で、商業・行政の中心をなす繁華街や各所にあった軍事施設の大部分が破壊され、家屋その他の建物もほとんど焼失しました。被災面積は約5平方キロメートルに及び、901名の方が犠牲となりました。

戦後の復興計画では、仙台市を東北の中心的文化都市とすることを目標とし、中心部には工業地域をおかない計画が策定されました。また道路の新設等による火災に強く、自動車交通の増大にも考慮した街路計画のもと、青葉通・定山溪通の街路樹や公園などの整備により「杜の都」の緑もよみがえりました。

戦前の仙台中心部（昭和5年～6年（1930年～31年））

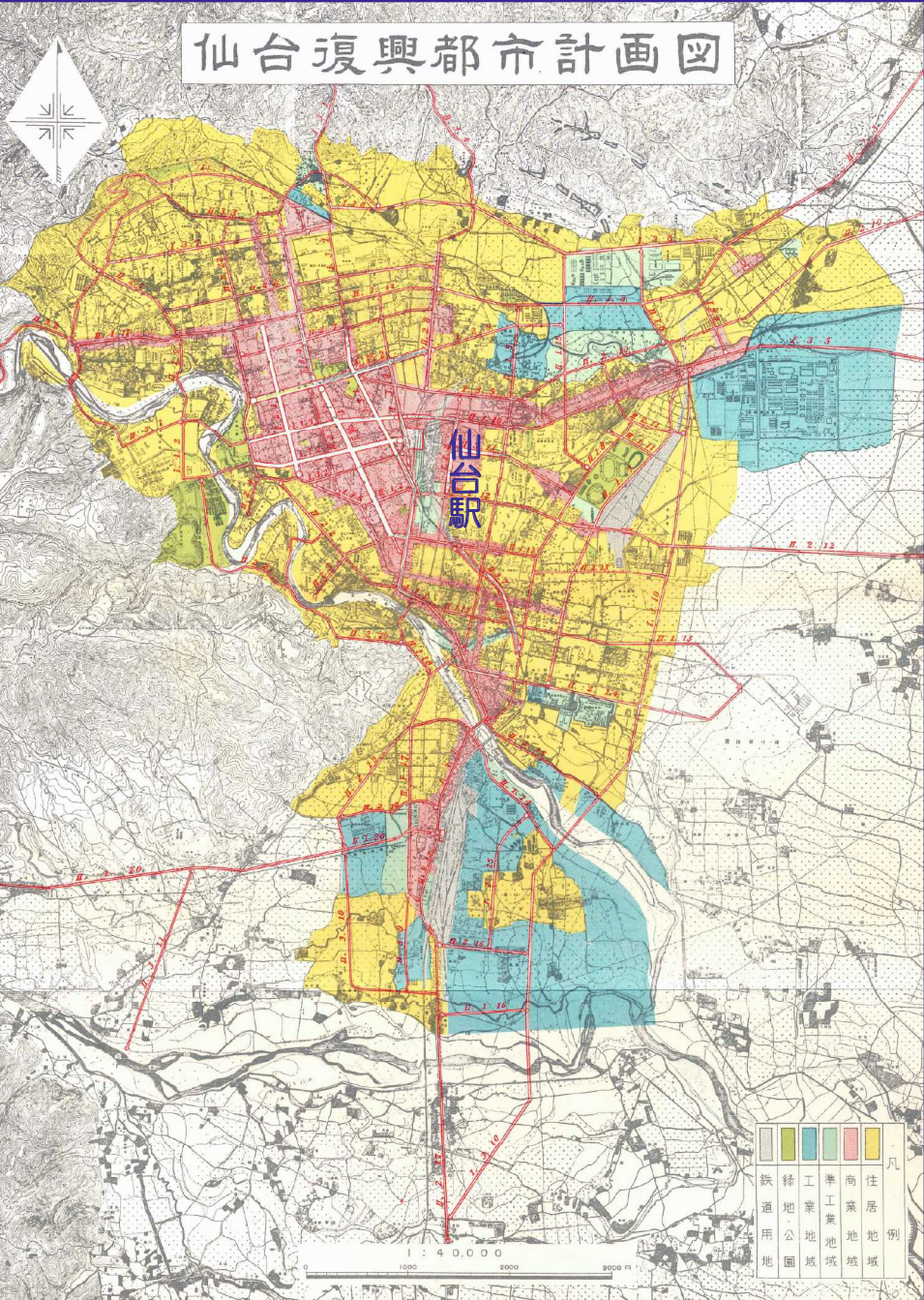


終戦後間もない仙台中心部（昭和22年（1947年））

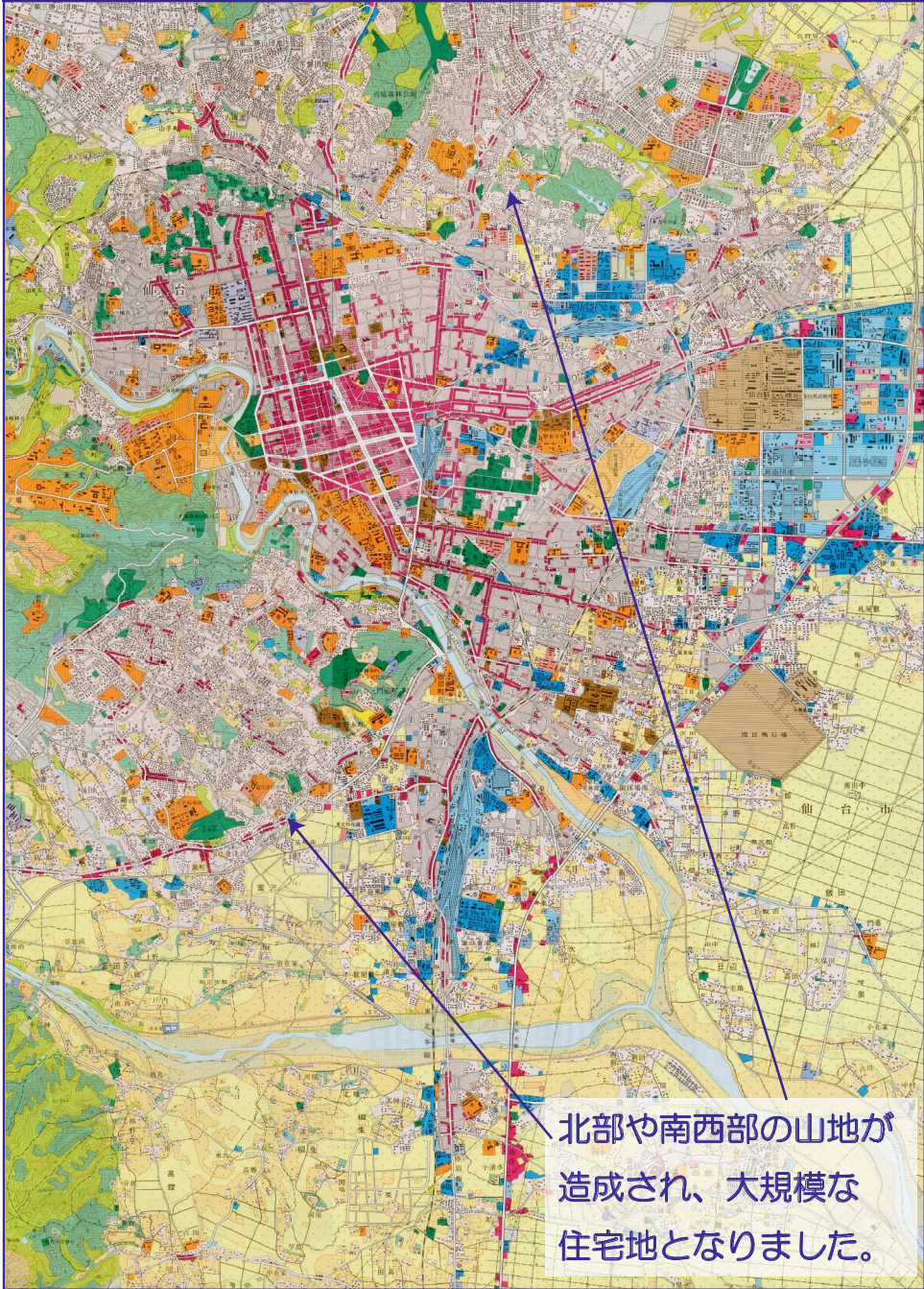


現在の仙台中心部（平成20年（2008年）国土地理院撮影）

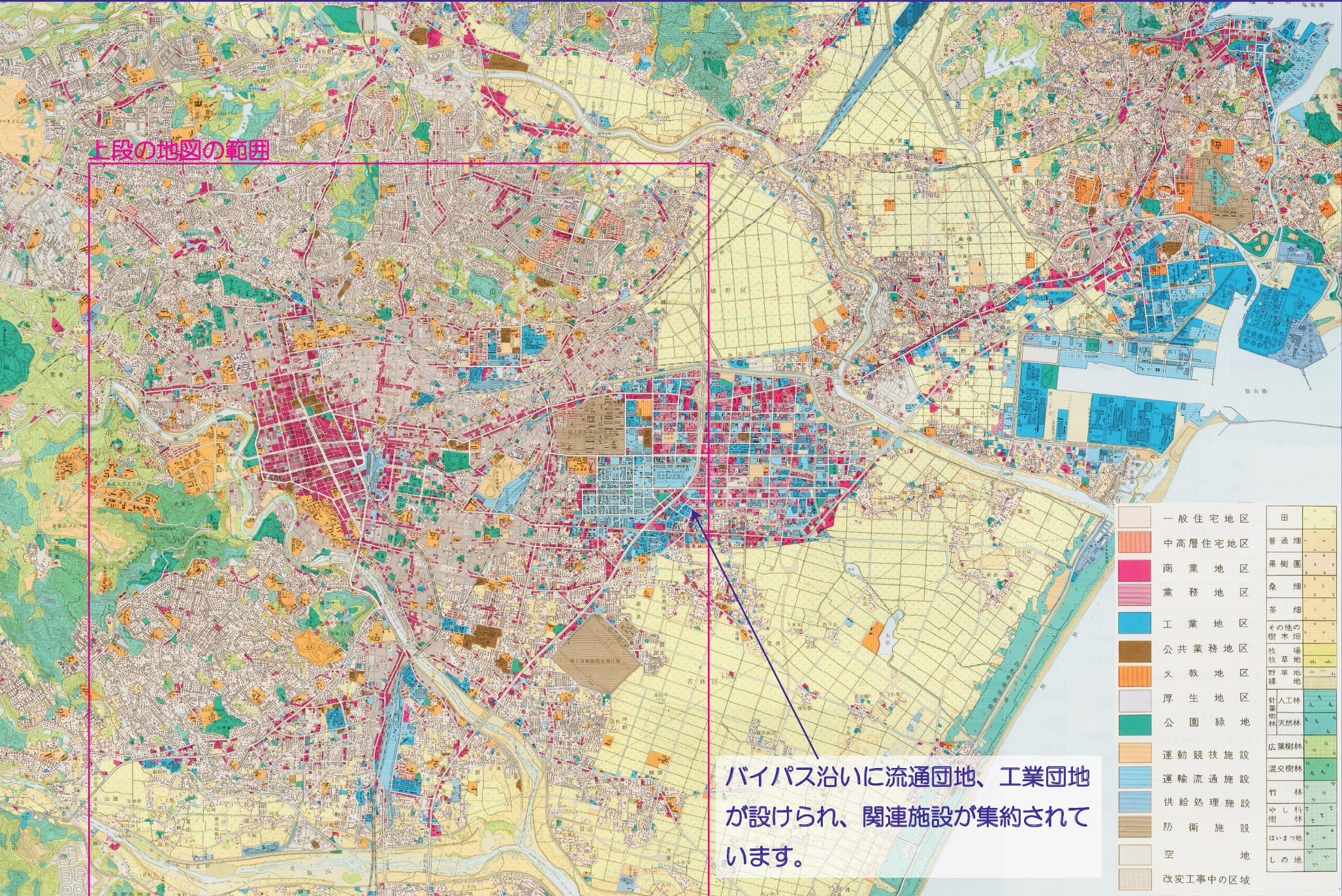




(戦災復興誌第7巻 昭和36年 建設省)



1/20000に拡大



1/20000に拡大